

1 5 . 技術経営研究科

| | |
|-------------------------|---------|
| 分析項目ごとの水準の判断 | 1 5 - 2 |
| 分析項目 進路・就職の状況 | 1 5 - 2 |

分析項目ごとの水準の判断

分析項目 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

本研究科では、平成 19 年度の第 1 回修了生より毎年修了生アンケートを実施し、良好な評価を得ている(資料 1)。とりわけ、修了生アンケートでの自由記述にみられるように(資料 2)、本研究科修了に対する満足度と入学前の不安解消度は期待された水準を上回ったものとなっている。その一方で、他の指標に比してばらつきのある入学目的達成度を勘案し、平成 22 年度より修了生を対象とした授業聴講制度を導入するとともに、修了生による在学生及び教員への修了後における MOT 学習のキャリア形成への成果についてのプレゼンテーションをプロジェクト演習 に組み込み、修了生と在学生とのコミュニケーションの場を通じて、在学中から入学目的の実質的把握を図ることとした。

資料 1 修了生アンケート結果

| | | 平成 19 年度 | 平成 20 年度 | 平成 21 年度 |
|-------------------|------------|----------------|-----------------|---------------|
| 修了生 | | 15 名 | 15 名 | 22 名 |
| 有効回答数 | | 8 名(回答率 53.3%) | 13 名(回答率 86.7%) | 20 名(回答率 91%) |
| 実施時期 | | 21 年 7 月郵送返信 | 21 年 3 月卒業式回収 | 22 年 3 月卒業式回収 |
| 質問事項 | 選択項目 | 回答数 | 回答数 | 回答数 |
| 入学目的は達成されたか | 達成, ほぼ達成 | 5 | 6 | 16 |
| | どちらとも言えない | 2 | 5 | 3 |
| | やや未達成, 未達成 | 1 | 2 | 1 |
| 授業内容や教員の対応には満足したか | 満足, ほぼ満足 | 8 | 8 | 17 |
| | どちらとも言えない | 0 | 5 | 3 |
| | やや不満足, 不満足 | 0 | 0 | 0 |
| 授業環境・設備・制度には満足したか | 満足, ほぼ満足 | 7 | 8 | 17 |
| | どちらとも言えない | 1 | 3 | 3 |
| | やや不満足 | 0 | 2 | 0 |
| 入学前の不安は解消されたか | 解消, ほぼ解消 | 5 | 10 | 14 |
| | どちらとも言えない | 3 | 2 | 5 |
| | やや未解消 | 0 | 1 | 1 |
| 本研究科を修了して満足しているか | 満足, ほぼ満足 | 7 | 13 | 18 |
| | どちらとも言えない | 1 | 0 | 2 |
| | やや不満足, 不満 | 0 | 0 | 0 |

資料 2 修了生アンケートにおける満足度

| 在籍 | 修了生の声 | 職業 |
|---------------------|--|-------------------------------|
| 平成 18 年度 ~ 19 年度 | 幅広い講義と実践的内容が私の 40 年にわたるビジネス知識や実践の理解を深め、視野を広げてくれました。課題を終えるとまた次の課題と大変ですが、それこそが楽しい学びの多い学生生活でした。 | アメリカ・ベンチャー企業 CEO |
| | 入学する前に自分で設定していた「経営的視点を汲み入れて技術を考えられるエンジニアになる」と言う課題に対しては、少しは身に付けられたと思います。また、講義カテゴリーは異なるものの最後は「企業はどうあるべきか」と言う点に集約されていくと感じました。言葉や論理は違うけれど、随所に同じ視点での見方・考え方が出てきました。様々な講義を受けながら、非常に興味深い構図でした。 | 電機メーカー (修了後プロジェクトマネージャー主任) |

| | | |
|-------------------------------|--|------------------------------|
| 平成 18 年度 ~ 20 年度 (長期履修) | 勤務時間の都合上、通学できる時間が限られているので、長期履修制度を利用して3年間の履修を選択しました。主に、6限と土曜日に講義をとっているのが、比較的仕事との両立がしやすいです。また、多岐にわたる講義があるので、3年で幅広く勉強しようと思いました。新潟大学MOTは様々な業種・職種の方が多く年齢層も幅広いので、とても刺激があります。技術経営ではあるものの、社会科学系の学部出身者が多いのも特徴かもしれません。共通することは、みんな高い志を持って各々の研究や課題に取り組み、情報交換しながら、専門性を高めていけるということではないでしょうか。 | 教育関係企業 (女性) |
| 平成 19 年度 ~ 21 年度 (長期履修) | テクニカル・ビジットでは、新潟市近郊で複合的な有畜稲作を行っている農業家を訪ねました。有機農業の技術とその成果を現場・現物で確認できるほか、ユーザー兼サポーターである消費者との関係性づくりなどの非技術要素がどのように構築されているのかについても理解を深めることが出来ました。農業と環境の挑戦課題を考えるようになった私自身は、それまでの教室のなかの傍観者の領域から、確実に一步踏み出したと実感しています。 | コンサルティング会社 (女性 / 東京在住) |

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

様々な課題意識をもった幅広い職業、年代の学生が集って学ぶ場である本研究科では、修了後の進路・就職というよりも、現在の職業、所属組織におけるキャリア形成が重要である。この点で、修了生アンケート結果が示すように、本研究科を修了したことに満足またはほぼ満足と答えた修了生が殆どであり、新卒者及び無職者が修了後本研究科での成果を活かした職場に就職していることを鑑みれば、進路・就職の状況は期待される水準を上回っていると判断される。